

施策評価（令和3年度）

施策評価調査

戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略			
施策4-5 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備			
幹事部局名	建設部	担当課名	道路課
評価者	建設部長	評価確定日	令和3年8月26日

1 施策のねらい（施策の目的）

人口減少社会に対応し、時間的距離を縮めて県土のコンパクト化を図るとともに、物流の効率化や交流人口の拡大を目指します。このため、高速道路をはじめとする幹線道路の整備や空港、港湾、高速IC等へのアクセス機能の強化を進めます。

また、道の駅を地方創生の拠点として位置づけ、魅力の向上を図ります。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

2－1 代表指標の状況と分析							施策の方向性（1）		
代表指標①		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
県内高速道路の供用率（％）		目標			90	90	92	92	
		実績	90	90	90	90	92		
		達成率			100.0%	100.0%	100.0%		
出典：県道路課調べ		指標の判定			a	a	a		
分析 （推移、実績・達成率、順位等）	順位等	全国	20位	15位	19位	20位	R 3. 8 月 判明予定		
		東北	3 位	1 位	3 位	3 位			
	- 日本海沿岸東北自動車道では、「三ツ井今泉道路」における小繋トンネル等の工事、「能代地区線形改良」における橋梁工事、「種梅入口交差点改良」における調査が進められたほか、令和3年度から「荷上場地区交差点改良」が新規事業化されることが、3年3月に公表された。また、「遊佐象潟道路」では、用地取得や（仮称）奈曽川橋の工事が進捗するなど、各事業箇所が順調に進んでいる。 - 東北中央自動車道では、「横堀道路」の改良及び橋梁工事が進められているほか、「真室川雄勝道路」では用地取得が順調に進んでいる。 - 現道活用区間として、県が「鷹巣西道路（日本海沿岸東北自動車道の一部を形成）」を施行し、令和2年12月に、「蟹沢IC～大館能代空港IC」間（5.3km）が開通した。 - これにより令和2年度は、県内高速道路の供用率が92％となり、目標を達成している。								

※ 指標の判定基準

「a」：達成率≥100% 「b」：100%＞達成率≥90% 「c」：90%＞達成率≥80%

「d」：80%＞達成率 又は 現状値＞実績値（前年度より改善） 「e」：現状値＞実績値（前年度より悪化）

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

2－2 成果指標・業績指標の状況と分析							施策の方向性（2）		
成果・業績指標①		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
県管理国道改良率(%)		目標			93.9	94.0	94.0	94.1	
		実績	93.8	93.8	93.9	94.1	94.2		
出典：県道路課「道路現況調書」		達成率			100.0%	100.1%	100.2%		
分析 (推移・実績・達成率・順位等)	順位等	全国	13位	14位	13位	13位	R 4. 2 月 判明予定		
		東北	2 位	2 位	2 位	2 位			
	・ 令和 2 年度は、国道108号矢ノ本工区（1.5km）や国道398号稲庭バイパス（1.4km）の供用開始によって、改良率が向上し、目標値を上回った。								

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

（1）交流や経済を支える高速道路網の形成【道路課】

指標	代表①
- 高速道路整備促進大会の開催や、建設促進期成同盟会等の要望活動を通じ、日本海沿岸東北自動車道及び東北中央自動車道の事業中区間の早期完成を国へ働きかけており、日本海沿岸東北自動車道の二ツ井今泉道路や、現道活用区間である「二ツ井白神 I C～（仮）小繋 I C」間の能代地区線形改良、遊佐象潟道路の工事、種梅入口交差点改良の調査、東北中央自動車道横堀道路の工事等が順調に進捗している。 - 秋田自動車道の暫定2車線区間である「北上 J C T～大曲 I C」間の4車線化については、昨年度までに「湯田 I C～横手 I C」間の約15.4kmが事業許可され、調査・設計が進められているほか、令和3年3月には、「北上西 I C～湯田 I C」間の約19.5kmが新たに事業許可された。	
〈新型コロナウイルス感染症の影響〉 毎年行われている高速道路整備の促進活動を行う全国大会が、感染拡大防止の観点から中止となり、国等への要望は、郵送や少人数による対応とした。	

（2）高速道路を補完し、広域交流を促進する幹線道路網の形成【道路課】

指標	成果①
- 地域高規格道路として、国道46号盛岡大曲道路「仙北市生保内～卒田」間の早期事業化を国へ強く働きかけた。また、幹線国道の整備として、国道7号「秋田南バイパス」の4車線化延伸や国道13号「横手北道路」の早期事業化を国に働きかけた。 - 国道105号大曲鷹巣道路「大覚野峠地区」については、県による調査や技術検討委員会での議論を踏まえ、令和3年度から国による権限代行事業（大覚野峠防災）として新規事業化されることが、3年3月に公表された。 - 国道101号（浜間口バイパス）や国道107号（本荘道路）等の幹線道路のほか、県道横手大森大内線（三本柳工区）等の高速 I C へのアクセス道路の整備を推進した。また、国道285号（沖田面工区）のバイパス整備について、新たに事業化した。	

（3）物流・交流拠点へのアクセス機能の強化【道路課、港湾空港課】

指標	—
秋田港と秋田自動車道秋田北 I C を結ぶ「秋田港アクセス道路」の調査・設計を進めた。	

（4）日々の暮らしを支える生活道路の機能強化【道路課】

指標	—
- 県道西目屋二ツ井線（荷上場工区）や県道秋田雄和本荘線（相川工区）の橋梁工事等を進めた。 - 国道103号（五ノ岱工区）等の歩道整備を推進した（整備延長637.9km<+2.6km>）。また、令和3年度からの新規事業として、角館六郷線（千屋第二工区）や大曲横手線（福小屋工区）など4箇所での歩道整備に着手する見込み。	

（5）地方創生の拠点としての「道の駅」の魅力の向上【道路課】

指標	—
障害者用屋根付き駐車スペースの整備（1か所）を進めるとともに、非常用電源装置の設置工事（8か所）や設計（設計済13か所〈+5か所〉）を行い、防災機能強化に向けた取組を進めた。	
〈新型コロナウイルス感染症の影響〉 県内の「道の駅」駅長が出席する「秋田県道の駅連絡会」などの会議が、感染拡大防止の観点から中止となったが、県内「道の駅」間の商品交流などの取組を進めるため、各「道の駅」からアンケートにより意見を徴収した。	

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
A	● 代表指標の達成状況については、①「県内高速道路の供用率」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

● 定量的評価：代表指標の達成状況から判定する。

「A」：代表指標が全て「a」、「B」：代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」：代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」：代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」：代表指標が全て「e」、「N」：代表指標に「n」を含む

● 定性的評価：成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文		地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。				
調査年度		R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度	満足度					
	肯定的意見	12.7%	16.4%	15.3%		△1.1
	十分 (5点)	1.2%	2.0%	1.6%		△0.4
	おおむね十分 (4点)	11.5%	14.4%	13.7%		△0.7
	ふつう (3点)	43.6%	43.7%	43.6%		△0.1
	否定的意見	29.3%	27.8%	29.9%		+2.1
	やや不十分 (2点)	18.2%	17.7%	18.4%		+0.7
	不十分 (1点)	11.1%	10.1%	11.5%		+1.4
	わからない・無回答	14.5%	12.2%	11.2%		△1.0
平均点		2.69	2.78	2.72		△0.06
調査結果の認識、取組に関する意見等						
○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.72」で、「ふつう」の3より0.28低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。 「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.3%、「ふつう」は43.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.9%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は58.9%であった。 ○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。 ・既にある道路（高速道路を含む）の維持管理が、他県に比べてあまりにも悪すぎる（凸凹等）。（男性／60歳代／由利地域） ・秋田県の地理的な環境や車社会であることを考えると、道路交通網はもっと迅速に整備してほしいと思います。（男性／40歳代／秋田地域） ・高速道路はかなり供用されてきたが、県内間を繋ぐ主要な生活道路の整備や改修に力を入れてほしい（冬季安全対策、バイパス化等）。（男性／40歳代／秋田地域）						

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	○ 高速道路の開通見通しが一部公表されていない区間があり、企業誘致や物流、観光振興等への影響が危惧される。（県民意識調査で同様の意見あり）	○ 関係機関との連携を強化し、高速道路の開通見通しについて、未公表区間を早期に公表するよう国に対して要望していく。
(2)	○ 国道105号大曲鷹巣道路の「大覚野峠地区」は、地すべりや雪崩等による交通障害が頻発するため、物流関係者等からの改善を望む声が多い。	○ 国による権限代行事業で行われることとなったが、引き続き早期着工を、国に対して要望していく。
(3)	○ 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響によりコンテナ取扱量は減少しているが、秋田港アクセス道路の重要性は変わらず、経済団体等からの早期完成を望む声は多い。	○ 事業進行中の秋田港アクセス道路の早期完成に向けて、今後も関係機関との連携を強化し、必要な財源確保について、国に対して要望していく。
(4)	● 高速道路はかなり供用されてきたが、県内間を繋ぐ主要な生活道路について、冬季安全対策やバイパス化等の整備・改修に力を入れてほしい。（県民意識調査より）	● 道路利用者の安全を確保するため、優先度の高い箇所から計画的に整備を進めていくほか、財源確保についても、国に対して要望していく。
(5)	○ 道の駅は、災害発生時に、避難、救助等の応急活動の基地となるが、防災拠点としての機能が脆弱な道の駅がある。	○ 道の駅の防災機能強化に向けて、非常用電源装置の早期整備に取り組んでいく。

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

6 政策評価委員会の意見

自己評価の「A」をもって妥当とする。
